



2008年5月11日

アーウィン牧師ならびにセンテナリー教会会員の皆様へ

アーウィン牧師はじめ、センテナリー教会の方々、教会献堂140周年記念を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

私共の東洋英和女学院は、123年前にセンテナリー教会会員でいらしたMiss Martha Julia Cartmellの祈りと献身的活動によって創設されました。Miss Cartmellは1882年9月、センテナリー教会で開催されたカナダ・メソジスト教会婦人伝道会社の年会の席上で、外国伝道の婦人宣教師に任命され、日本の地に赴き、東洋英和女学院の礎を築きました。この地が、この教会が東洋英和女学院の出発点であります。Miss Cartmellが祈り、人生の大いなる決断をした、その建物が今ここに存在し、140周年の記念礼拝を捧げられることに感銘を覚えます。

ミス・カートメルは神に仕えるとともに、この神が愛して下さった人に仕えることに人間の真実があると確信していました。その後続く宣教師の先生方も、キリスト教信仰と愛の実践で生徒や教師に大きな感化を与えました。東洋英和女学院の標語は「敬神奉仕」です。ミス・カートメルをはじめ宣教師の先生方の生き方そのものが、学院の教育の目指すところとなりました。

センテナリー教会は東洋英和女学院の源流であり、母なる教会に他なりません。この度の記念礼拝に学院より2名の参加が許され、神の恵みと奇しき御業に共に賛美と感謝を捧げられることができましたこと、大変嬉しく思います。

また毎年夏に、語学研修でカナダを訪れている東洋英和の高校生をセンテナリー教会の方々が暖かく迎えてくださっていることも、大変感謝しております。この場を借りまして、改めて御礼申し上げます。

私は、組織というものは、創立の精神をしっかり守ることが大切であると確信しております。東洋英和女学院の原点でありますセンテナリー教会と、これからもより強く心の絆を深め、学院のあるべき姿を確認して参りたいと思っております。

本日は本当におめでとうございました。太平洋を隔てた日本の地より、センテナリー教会の益々の発展を祈念しております。

東洋英和女学院  
理事長・院長  
池田 守男